

サ 一 ② ク 間 丸

郷土の心 和太鼓でドドン!

金華山子供黒潮太鼓

金華山子供黒潮太鼓は、現在、小学校2年生から6年生までの16人のメンバーで活動を行っています。毎週月曜日に牡鹿公民館で練習を行い、6年生が後輩に教えながらみんな楽しく、そして真剣な表情で太鼓に向かっていきます。太鼓に寄せる思いを、代表者であり指導者でもある齋藤富嗣さんに伺いました。



金華山子供黒潮太鼓は、生涯学習の一環として牡鹿地区の創作太鼓、金華山黒潮太鼓の演奏を子どもたちに伝承しようとして平成4年に結成されました。

結成から13年、牡鹿の鯨まつりや芸能祭などのイベントをはじめ、各地から多くの出演依頼をいただき、数々の会場で多くの人に演奏を披露してきました。子どもたちに太鼓を教えるというよりも嬉しいことは、太鼓に寄せる熱意がいつの年も変わることなく「やってみたい!」という子どもたちが多くことです。伝承の大切さはもとより、子どもたちにとっては貴重な経験と大きな自信、そして励みになると思っています。

今年も新市誕生を記念して新たな曲にも挑戦する予定です。太鼓をやりたいという子どもたちがいる限り、地域の方々の協力と理解をいただきながら、今後も指導に努めていきたいと思っています。



農業一筋

支え合って50年

庄司

勝見さん
佳子さん

ご夫妻(北村)

今回は、河南地区北村で長年、農業を営んできた庄司さんご夫妻を紹介します。

結婚したのは、昭和30年4月ですから、ちょうど50年になりました。見合い結婚でした。

結婚後は、毎日、朝から晩まで田畑を耕し、山の下刈りをす



るなど、とにかく一年中働きつめの生活でした。二人とも口には出しませんでした。農家の長男夫婦として、家業を守るため、二人で支え合っただという気持ちは強かったです。

3人の子宝に恵まれ、現在は、長男夫婦、2人の孫、母親と暮らしています。

長男夫婦が農業を継いだ後も、自宅近くの農園で、夫婦でふき、梅、栗、茶などを育て加工しています。中でも、結婚後間もなく植栽した茶畑のお茶は、コクがあると評判で、今年も5月に摘んだ新茶の出来を二人で楽しみにしています。

みんな

学ぶ楽しさを実感

佐藤 長右衛門さん(北上町月浜) 91歳

長寿のひけつ②



今回は、91歳で俳句歴三十年の佐藤長右衛門さんをご紹介します。

佐藤さんは、学ぶことが大好きで、時間があると俳句作品を作ったり、本や新聞を読んだりする勉強家です。日記は30歳ごろから書き始め、現在も寝る前に一日の出来事を書き留めています。

また、花が好きで、色とりどりの花が咲くこれからの季節を楽しみにしています。

勤務していた職場を退職し、何か趣味を始めようと思っていたとき、知人に誘われ俳句作りを始めました。昭和五十一年には、北上町の文化活動の一つとして結成した「北上町俳句愛好会」に入会し、

本格的に俳句を始めました。その後、角川書店「河」同人会の会員となり、現在はこの二つの会に毎月五句ずつ投句をしています。

毎月、句会には出席できなくなりましたが、句会を通して多くの師友と出会い学ぶことができたのが、大きな励みとなりました。

今年4月に開催された南三陸俳句クラブ新春俳句交歓会では、投句した三句がすべて入選し、家族も驚いていました。

俳句は奥が深く勉強がかかせません。毎日午前中は、俳誌や句集などを読み、俳句五句を作るよう心がけています。集中力や記憶力を喚起させるので、頭の老化防止にもなります。五七五の音節をどのように表現するか考えるのが、最高の楽しみです。

にぎやか家族②

伊原津一丁目

桃生町中津山



(写真左から)

佐藤 瑠菜ちゃん(8歳) 映 瑠ちゃん(5歳) 志 龍くん(2歳)

<おばあさんから>

お父さんとお母さんは仕事が忙しくて、なかなか一緒に遊べないけど、素直で元気に育ってほしい。

<子どもたちから>

家族7人、みんな長生きしてね!



(写真左から)

佐々木 海晴くん(5歳) 悠 真くん(6歳) 大 城くん(1歳)

<パパママから>

いつも元気いっぱいの子どもたち。子どもらしく素直な、善悪の判断ができる子に育ってね。

<子どもたちの将来の夢>

悠真くん……水泳選手 海晴くん……警察官